

## 職員による自己評価

A環境・体制面

昨年度より職員が少ない中、利用児童が増えたが、環境に慣れた児童も多く、大きな混乱はなく活動を行っている。

B児童への支援

希望される家庭には年に1回の面談を実施し、要望などを直接伺うことができた。

C関係機関との連携

他事業所や学校と電話やオンライン、対面での会議を通して情報の共有や、支援方法の検討を実施できている。また地域児童支援協議会や児童部会なども、対面での実施も増えており、可能な限り参加している。

D保護者への説明責任・信頼関係

ご家庭からの要望も無い為、保護者会等は実施していない。送迎の際や、電話対応、モニタリングなどご要望を伺い、適切に対応している。

E非常対応

緊急時のマニュアルに沿って、定期的に避難訓練を開催し、適切な取り組みを行っている。

## 保護者による評価

A環境・体制面

活動のスペースの確保については大半の方から十分に確保されているとの意見を伺った。

B児童への支援

支援計画書をもとに子ども達、保護者のニーズに合わせた活動を行っている。週単位やメンバーに合わせて内容を変更しており、固定化はしていない。他のデイサービスや児童館、障害のない子どもとの交流については、必要がない、希望をしないというご意見が多く上がっている。

C事業所からの情報発信

保護者会等については、ご家庭からの希望もなく、必要がないとの意見も多い。代りに送迎時や電話連絡、連絡帳でのやりとりで情報交換を行い、その他では、ブログでの発信を行っている。

D非常対応

非常対応については、こちらでの対応を信頼して、らせていただけているという意見もあった。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

- 環境・体制設備の点に関しては、ほとんどが「はい」の返事であり、保護者様のニーズに添えている点。
- 保護者会などでの保護者同士の連携は求めないという点。
- 放課後児童クラブや障害のない子との交流は必要ないという点。

## 【相違点】

- 緊急時等の対応について、非常災害の発生の備えや、避難訓練の実施などについて「どちらともいえない」や「いいえ」といった意見が多い点。

